

総会フラッシュ

した」と述べ、ブロックの市況はようやく底入れした、との見方を示した。

さらに布重会長は「国交省の徳山日出男道路局長がある会合で、公共事業費が対前年プラスとなったことに関連して、当初予算ベースが今後とも安定的に15度くらいの右肩上がりで増えて行くことが重要と指摘していた。計算すると年率20%の大きな伸びだ。また東京都は2020年の東京オリンピックについて、既存設備を活用し景観や安全安心に注力すると表明している。

このような上げ潮ムードを後退させる訳にはいかない。業界が一丸となり、この流れに乗るべきで、我々は太平洋グループのシナジー効果を最大限に活用して需要を取り込んで行きたい」と述べた。

来賓では、太平洋セメント社長の福田修二氏が挨拶した。福田氏はセメント需要について「2010年に4160万トンまで落ち込んだセメント国内需要は3・11を契機に回復基調となり、昨年は4770万トン(前年比7%増)まで回復した。今年も昨年並の4800万トンの需要を想定しており、2019年度までは4600万トンから4800

万トンで推移するのではないかと述べた。また東京オリンピック後のセメント需要について「前政権末期の4160万トンまで落ち込むとインフラ維持が困難になる」とした上で、「希望的観測を含め4500万トンは行く」との見方を示した。

また太平洋セメントの運営方針について、安定供給と財務体質の強化を上げ「4800万トンという恵まれた需要に対し、安定供給体制を取ることが重要だ。昨年の工場運転率は99%で、工場サイドも相当緊張ながらの操業だったが、今年もほぼ同じ運転率で予算を組んでいる。厳しい時代が続く工場のメンテナンスは遅れ気味になっているが故障は安定供給や収益に直接影響するので、メンテナンスも進める方針だ。当社の3月決算は営業利益で目標の700億円を達成し経常利益695億、当期純利益350億円と内容は良かった。しかし有利子負債は依然として大きい。国内は少子高齢化が進んでおり将来的には東南アジアを中心とした海外投資が不可欠で、財務体質の強化を進める必要がある。当社ではセメントの適正価格販売を進めているが、値上げを受け入れてもらえる環境作りにも注力している」と述べ、セメント価格の値上げに理解を求めた。また足元のセメント需要につい

て「4月5月はほぼ横ばいで、6月は対前年比でマイナスだった。特に大消費地の東京が対前年比マイナスとなっているのが気掛かりだが、契約残は減少しておらず秋口から回復に向かう」との見方を示した。

またブロック舗装の普及に関連して「コンクリート舗装に力を入れた結果、少しずつ浸透している。施工時間や補修の課題も克服されつつあり、コンクリート舗装は燃費が良いことも分かってきた。ブロック舗装も景観性をはじめ、浸透性や補修性など優れたメリットがあり、太平洋セメントでもアピールを進めたい。価格が割高との指摘もあるが、何十年にわたり使用するものをインシヤルコストだけで判断して良いのだろうか。今後、ブロック舗装を活用する場面は増えるはずで、長い目で見た時に舗装ブロックで良かったと言ってもらえるよう、中央研究所を中心に課題の克服を図りながら営業面でもバックアップしたい」と述べた。

ロードクレーラー

積極的にPR

ロードクレーラー研究会

ロードクレーラー研究会(会長 松岡重吉氏)は13日、名古屋ガーデンパレスホテル(名古屋市中)で平成26年度第6回定期総会を開

催した。総会では平成25年度事業報告・決算報告、平成26年度事業計画案、予算案が原案通り承認可決された。今年度は技術部会開催の他、展示会への出展などを通じてロードクレーラーのPRを進める計画。

室効果ガス排出への十分な対策を取らなければ超大型台風が発生頻度は3倍以上に増加し、農作物への悪影響も顕著になり深刻な食糧危機に陥り国際紛争も起こり得ると警告している。その一方で報告は、我々が努力して温室効果ガスの排出量を2050年までに今より40%から70%削減することができれば、平均気温の上昇は1℃に抑えられるとも指摘している。これこそロードクレーラー研究会の使命と合致する部分であり、我々は百年後の子孫のためにマスコミをはじめ、あらゆる手段を総動員してロードクレーラーの優れた特性をPRし、あらゆる方面からの情報協力を得ながらロードクレーラーの普及拡大を図らなければならない。そして実績を作り上げていくことが、結果として会員各位の企業の発展につながると確信している。国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、第2次第3次報告書で、地球温暖化対策の鍵を握るのは低炭素エネルギーの飛躍的な普及であり、今なら間に合うと明言している。ロードクレーラーは太陽熱の再帰反射により涼しい都市づくりと地球温暖化対策に貢献する技術だ。

総会終了後には、マレーシア工科大学の岩尾健三教授が「ロードクレーラー等の評価技術の紹介」と題し講演した。

総会開催にあたり挨拶した松岡会長は「昨今の環境対策事業では太陽光や風力発電など、マスコミ受けする自然エネルギーのみが注目を集めている。その結果、遮熱塗料の注目度は相対的に低くなっており非常に残念だ。しかし環境省が6日に発表した内容によると、今のペースで温室効果ガスの排出が増え地球温暖化が進んだ場合、今世紀末には気温は全国平均で4・4℃上昇し、30℃以上の真夏日が年間2カ月近く増えるそう。沖縄では1年の半分が真夏日になり、東京は現在の約16℃から奄美大島並みの20℃程度に亜熱帯化する見込みということだ。温



松岡会長

本日の総会では活発な意見交換を通じて、ロードクレーラー研究会が発展していくことを祈念している」と述べた。